

特集 市初のダム建設

市貯水事業の始まり(昭和初期)

水道施設の拡張に明け暮れた明治大正時代を経て昭和に入ると、軍の増強に伴う原水分与の打ち切りや著しい給水人口の増加により、本市は水不足に陥る事態になりました。市は、独自に新たな水源を求め、昭和十五(一九四〇)年、貯水能力百四十六万立方メートルの菺田ダムを建設しました。これは、市が建設した最初のダムで、これにより念願であった、ダム(菺田)から浄水場(山の田第二)を経て各家庭までの一貫した市独自の施設による給水が行われるようになりました。



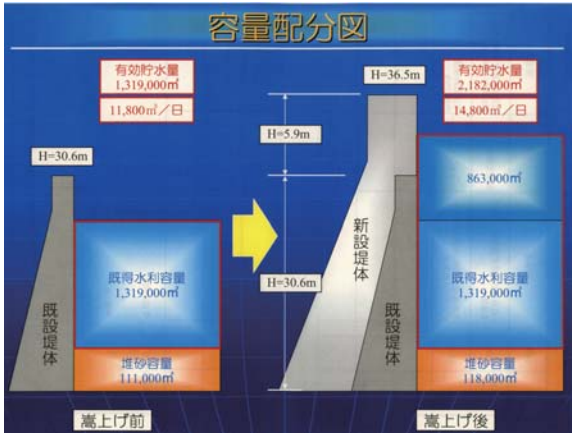
菺田ダム (市が建設した最初のダム)

下の原ダム嵩上げ工事が竣工しました



市南部水系にある下の原ダムの嵩上げ工事は、水資源確保の中期対策として、平成7年度から取り組んできた事業で、平成15年から本体工事に着手し、約3年の歳月をかけて完成させました。

ダム高を5.9m嵩上げすることで、山の田ダムと転石ダムを合わせた貯水量を上回る863,000m³(通常使用分636,000m³と渇水対策用分227,000m³)が新たに貯水可能となり、市内最大のダムとなりました。



- 【所在地】 下の原町
- 【概要】 重力式コンクリートダム
- | | 変更前 | 変更後 |
|--------|-------------------------|---------------------------|
| ○ダム高 | 30.6m | ⇒ 36.5m |
| ○ダム長 | 169.5m | ⇒ 178.0m |
| ○有効貯水量 | 1,319,000m ³ | ⇒ 2,182,000m ³ |
| ○取水量 | 11,800m ³ /日 | ⇒ 14,800m ³ /日 |

年代	総貯水量	使用可能日数
昭和25年当時	2,646,000m ³	約48日分
昭和31年当時(川谷ダム完成後)	4,256,000m ³	約78日分
昭和39年当時	4,256,000m ³	約65日分
昭和44年当時(下の原ダム完成後)	5,575,000m ³	約75日分
平成5年当時(渇水前)	5,575,000m ³	約62日分
現在(下の原ダム嵩上げ後)	6,438,000m ³	約77日分

~多くの犠牲を伴い完成した相当ダム~



相当ダムの慰霊碑

相当ダムの建設には、太平洋戦争で捕虜となった連合国軍兵約300人も動員されました。突貫工事と重労働により、連合国軍兵53人、日本人14人が犠牲となり、現在のダムそばには、亡くなった67人の慰霊碑が立てられています。

菺田ダム完成の翌年、太平洋戦争が開戦し、これに伴い旧海軍はさらなる水道施設拡張に着手しました。市内で初めて大量に水を浄水できる急速ろ過池を取り入れた大野浄水場(瀬戸越一丁目)は、同十八年、山の田浄水場に程近い場所に建設されました。また、同十九年に建設された相当ダム(上柚木町)は、旧海軍が建設した最後のダムです。旧海軍によって生まれ、拡張された本市の水道は、同二十年、太平洋戦争が終結し、軍が解体されたため、旧海軍施設のすべてが市に無償譲渡されました。

現在に至る市給水事業

給水能力の増強と渇水

旧海軍施設の無償譲渡により、本市水道の給水能力は、一日約三万立方メートルとなりましたが、駐留軍、工業用水などへの給水量を除くと、約一万三千立方メートルしか使用できず、当時の給水人口約十万人を賄うには少なすぎる量でした。昭和二十五年に朝鮮戦争が始まると事態はさらに深刻となり、たびたび給水制限を余儀なくされました。そこで、戦前に旧海軍により建設が進められ、戦況の悪化により中止されていた川谷ダムの建設に取りかかり、同三十一年三月、当時では市内最大のダムが完成しました。これにより本市の給水能力は一日約四万四千立方メートルとなり、給水制限の悩みは解消し、同三十四年の柚木浄水場の完成により、山間部などへの安定的な給水も可能となりました。その後の産業の発展、市街地の拡大、生活水準の向上は水需要の増大をもたらし、さらなる水源開発が求められるようになったため、同四十二年に下の原ダム、同四十四年に広田浄水場の建設を行いました。しかし、増大する水需要への抜本的な対策には程遠く、本市は慢性的な水不足に悩まされ、平成六年には、百年に一度と言われた未曾有の大渇水が

水道給水開始100周年記念行事

- ①第29回水道週間中央行事
 - とき: 6月3日(日)
 - ところ: アルカスSASEBO
 - 内容: 厚生労働省の主催行事。式典や桂三枝さんの記念講演など
- ②水道給水開始100周年記念式典
 - とき: 9月2日(日)
 - ところ: アルカスSASEBO
 - 内容: 明治40年の水道給水開始から100年目を記念した式典など
- ③ウォーキング&ダム見学ツアー
 - とき: 10月下旬
 - 内容:
 - ①下の原ダム周辺のウォーキング
 - ②市内のダムの見学ツアー
- ④おかあさんといっしょファミリーコンサート
 - とき: 12月8日(土)
 - ところ: アルカスSASEBO
 - 内容: NHK公開番組ファミリーコンサート



ピッチ



チャップ

●お尋ね 水道局総務課
☎0956・24・1151



渇水時の下の原ダム

起こりました。このときの給水制限は二百六十四日間という長期間におよび、長いときには一日二十時間という断水も行われ、市民生活に大きな影響を与えました。この大渇水を受け、水道の南北融通施設や小森川取水安定施設などを同十年までに完成させ、ことし二月には、市南部水系唯一のダムである下の原ダムの嵩上げ工事が完成しました。しかし、本市の慢性的な水不足は完全には解消されていないというのが実情です。渇水の不安を完全になくすためには、石木ダム(東彼杵郡川棚町)の建設が不可欠で、ダム建設のため、地元関係者の皆さんに今後ともご理解とご協力をお願いしていくことが必要です。ことし水道給水開始百周年という節目を迎え、これまでの歴史を振り返ることで、市民の皆さんに改めて「水の大切さ」を考えていただくきっかけになればと思います。